

神樹の会会報

No. 14

昭和63年5月6日

発行所：神樹の会

発行人：牧野一夫

本部事務所（六甲作業所内）

〒657 神戸市灘区備後町3丁目2番22号

☎821-1533

六甲作業所、東部生活訓練所

〒657 神戸市灘区備後町3丁目2番22号

☎821-1533

垂水作業所

〒655 神戸市垂水区屋陵台4丁目4番45号

☎782-9675

福祉の店“いたやど”

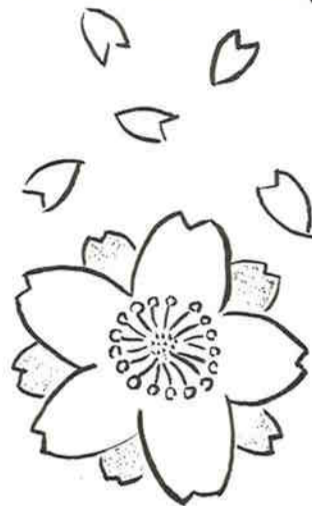
〒654 神戸市須磨区大黒町2丁目2-12

☎733-2477

（事業所）

春の人事異動に思う

神樹の会 会長
牧野 一夫



万物生成 百花曠乱の春はまた哀歎の時節でもある。温かい目で神樹の会の活動を指導していただいた岡崎民生局長のご転任や、直接会の育成やワークホーム明友の誕生、通所施設の運営に尽力を賜った武衛課長のご退任、また友生養護学校の前田教頭 原田由雄先生、垂水養護学校の古川教頭 西垣幸夫先生をはじめ多くの転任された先生方からは会報の編集や諸会合の議事運営、バザーの協力など随分とお世話になった。

神樹の会自体もまた総会を機に何名かの先輩が役員を交替されることになる。去りゆく一人ひとりの思い出をたどれば愛惜の情絶ちがたいものがある。しかしゆずり葉ではないが、かくして伝統は継承され新芽は成長するのである。殊に人間社会は長年にわたる同一のリーダー、同一の組織では必ず沈滞欠点を生ずることは歴史の証明するところである。絶えず異質の文化や人の交流があつてこそ、常に初心にかえり、自浄作用が行われて会の維持発展が行なわれるのである。

六百の会員を擁する神樹の会も尊い先人のご労苦を基盤に更に成熟集団に高めたいものである。

ふれあいの中で

神戸市民生局心身障害福祉室
元育成課長 武衛 俊雄

私、この三月末日をもって神戸市を定年退職いたしました。これまで何かとお世話さまになりありがとうございました。ございました。

四十年の在職最後の段階で、障害をもつ方々とのふれあいの中で、私の微力を福祉の向上に注ぐことができたことに感謝いたします。とりわけ、重度身障者の授産施設をしいあわせの村に開設、さらに在宅の方へのデイサービス事業を開始することができたことは、一重にみなさまがたのお力添えの賜物でございます。

神樹の会のみなさまの今後より一層のご精進と、会のご発展を祈念しごあいさつに替えます。

総会案内

日時 6月19日(日)
午後1:30分
～4:30分

場所 身障センター体育室

議題 62年度決算報告
62年度事業報告
63年度予算案
63年度事業案
役員改選
その他

転退職された先生方

たいへんお世話になりました

古川 学	退職	倉橋景子	管外
前田真紀	玉津第二幼	八島のぞみ	退職
岡村英一郎	横尾小	松田幸子(実習助)	退職
西垣幸夫	退職	坂本直樹(時講師)	退職
松本伸男	榎谷中	坂下昌子	内地留学
立花正美	飛松中		
岡野由美	西落合中		
高橋清司	退職		
野島恵子	青陽東養		
吉田益雄	白川台中		
藤原雅晴	退職		
斎藤益生	青陽東養		

西鈴蘭台の地で

前田 四郎

さんちかでの神樹の会バザー準備できなくなりましたが、生徒数四十四名の藍那那小学校の地で、ささやかながら協力したいです。

(元友生養護教頭)

感謝

原田 由雄

全国的レベルの活動をつづけておられる神樹の会のみなさんと過ごせた日々感謝の念で一杯です。ますますのご発展を祈念いたします。

(元友生養護PTA係り)

感謝無量

古川 学

「ものいわぬ旭が丘の学び舎も、心ありてかさようならと言ふ」
牧野会長の創りし垂水養護との別離、感無量です。

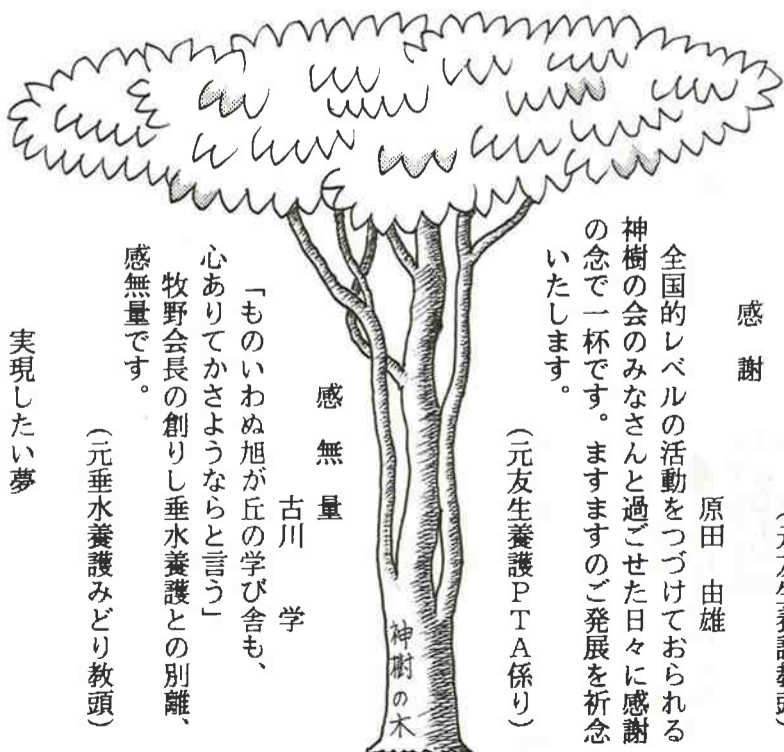
(元垂水養護みどり教頭)

実現したい夢

西垣 幸夫

「キンコンカン...」ろばのパン屋さんかな? いいえこの町、あの街角へ、バスの巡回『移動訓練教室』車がやってきたのでした。

(元垂水養護PTA係り)



去る三月に友生、垂水両養護学校合わせて十四名が高等部を卒業。友生中学部、垂水みどり学級を卒業の二名の方々が学籍を離れ、それぞれの進路にそってあたらしい生活をされています。

垂水作業所

前川愛樹(垂水)
加藤浩幸(垂水)

東部生生活訓練所

杉本明美(友生)



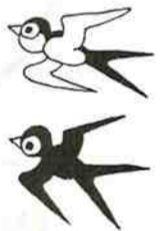
▲先輩といっしょにがんばってま〜す。



▶友愛館で勢揃い

愛生園

ラブリー・フレンド



坂本 祐子(友生)
石飛 良(垂水)
肥塚 雅之(垂水)
浜田 英男(垂水)
坂口 由美(垂水)
亀井 良元(垂水)
田中 俊造(垂水)
久富木 正子(垂水)
柴田 裕子(垂水)

MY WAY 道のねぞね YOUR WAY

★星陵園
藪中慎太郎(垂水)
福岡 由行(みどり)

↑在宅
河野 研二(友生)

治療施設
希望
只津ひで子(垂水)

愛生園ラブリフレンド
定員33名 在籍33名

星陵園
定員20名 在籍22名

友生、垂水両養護学校において重度重複児が増える中、卒業後の進路は、充分な受け入れ態勢や施設がないため、全く閉ざされた感で不安がつよってきている。垂水養護学校から端を発した進路を考える先生方、親たちの熱烈なる願いが、デイサービス推進委員会設置にまで発展してきた。六十二年二月三日に神樹の会二名、垂水養護学校関係四名により民生局育成課に現状を説明する機会を持った。その後神樹の会がリーダーをとり友生、垂水両校からの代表約十名からなる会(デイサービス推進委員会)が組織されることになった。又学校サイ

ドに於いても一月十三日両校校長先生によって「肢体不自由養護学校卒業生に対する福祉施設の充実・整備について」のお願い書が民生局にだされた。二月八日、四月十九日にもたれた委員会では神戸市長あてに要望書を提出することが決まりその案が検討された。同時に添付される参考資料両校の今後五年間のデイサービス入所該当者数によると、卒業生百名中六十一名がその対象になるという。この現実をみるにつけ、一刻も早くその対策が迫られているのである。

デイ・サービス事業

対策

子育て奮闘記

庄司 百合子

六時目ざまし時計の音で目を覚ます。アーアー眠いなあ。休もうかな。ウーンやっぱり起きよ！子供たちの腕をそっとはずし布団から出る。今日一日頑張ろう！朝の用意を子供たちに急いで食事をさせながら、自分もそそくそくと食事をし車に乗る。保護帽持った。忘れ物なし？まあいいや、あー時間なし急げ急げ。

弟と妹を保育所にいれると一仕事まで車でドライブ。今日の周平は機嫌よし。時々カーブで体のバランスを崩して怒っているが、これも訓練。キンコンカーン始業のベルと同時に学校へ、教室にはいつも遅れながら、クラスのみんなに悪いなあと思いつつ「おはようございます。」と元気な

声で挨拶、ほっと一息。このようにして朝の慌ただしい時間を過ごして学校にやってくる。

この友生に通っているのが長兄周平八才小学校三年生、うまれて四か月目に発作が出てそれ以来病院と訓練施設に通っています。弟妹は四才男の子、二才女の子です。只今子育て真っ最中、帰ってからも店の用事をし保育所に迎えに行き九時過ぎ家へ帰宅、一日の内ではほとんとする暇もないけれど兄弟が公園で遊んでいると通りすがりの人が兄を見ます。腕白ざかりの弟が「僕の兄ちゃんやねん、歩かれへんねん訓練してるねん」と言っている姿を見るとジーンと胸を打たれる思いです。これからこの弟や妹たちが兄のことでもつまづくこともあるとおもいますが、今の優しさを忘れずに兄にかわり合いながら成長して欲しいと思います。今日も車のなかで「兄ちゃん頑張ってる訓練してや、僕も頑張るからな」という言葉に励まされながら友生へと車を走らせています。

(友生養護三年 母親)

本部より

* 会費値上げの件
十六年間据え置かれていた会費(年間千円)の値上げの審議が、六十三年度総会においてなされます。

* 相談コーナー
牧野先生、西山氏による相談コーナーが開設される運びとなりました。皆さまご利用下さい。詳しくは次号で。

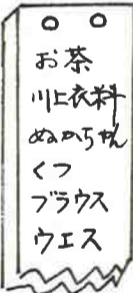
* 販売部
昨年七月発足した販売部では、皆さまのご協力で四十六万七千二百二十七円の販売利益をあげることができました。感謝



* 三月垂水養護学校を卒業された肥塚雅之くんが、日記「かかし」を発刊されました。

* 寄付
次の方々が亡くなられお供養として寄付をして下さいました。

阿部かおり様 (本人)
垂水みどり学級
佐々木奈緒様 (本人)
友生養護
河辺梅太郎様 (保護者)
友生養護



お茶
川上衣料
ぬいぐるみ
くつ
ブラウス
ウェス



薫風の季節、雨上がりの新緑が目にしみるさわやかな時候となりました。会員の皆さまお元気でお過ごしでしょうか。三回発行される会報が会員同志のこころのパイプとなりまますように祈りつつ。

ご執筆ありがとうございました。

宮脇(OB)
西村(友生)
西原(垂水)